

# 京都大学 MOOC におけるコースの運用について

岡本 雅子, 酒井 博之, Isanka Wijerathene, 飯吉 透

京都大学 高等教育研究開発推進センター

okamoto.masako.8v@kyoto-u.ac.jp

## Management of MOOC at Kyoto University

Masako Okamoto, Hiroyuki Sakai, Isanka Wijerathene, Toru Iiyoshi

Center for the Promotion of Excellence in Higher Education, Kyoto University

### 概要

京都大学における MOOC (大規模オープンオンライン講義) のコース運用の過程の中で、特に掲示板を活用した受講者とのコミュニケーションの実態について報告するとともにウェブサイト等を用いた広報の概要について説明する。

## 1 MOOC における運用上の特徴

京都大学は、主要なグローバル MOOC プロバイダーの一つである edX に加盟している。ここで公開される講義コースでは、英語が使用されており、全世界の受講者を対象として公開される。

edX の MOOC は、映像教材などのその他のデジタル教材と同じく、予め作成した講義コンテンツを学習者に提供するという性格のものであるが、一方向に情報を伝達するだけでなく、各講義のコースそれぞれに対応する形でウェブサイト上に設置してある掲示板の反応を見ながら、同掲示板内で直接的に指導できるなど、各コースの開示期間内において情報のフィードバックが可能なシステムとして設計されている。

受講者の募集に目を移してみると、講義コンテンツは、広報期間が限定されており、そこで登録した者が数週間から十数週間の期間内に受講するという仕組みを採用している。こうした側面においては、大学におけるシラバスの配布と履修登録の関係に近い。

この二つの MOOC における情報伝達の特徴は、効果的な運用を考える上において非常に重要な位置を占めているものと著者らは考えており、こうしたことから、本稿では、運用側と受講者側の情報伝達のあり方に焦点を絞り、掲示板を活用したコミュニケーションの実態について報告するとともに広報の概要について説明したい。

## 2 一方向型情報伝達

### 2.1 広報を目的とした情報伝達

MOOC の各講義コースは、その配信前にウェブサイト上において紹介動画 (トレーラー) と文章によって、講義の概要、講師の紹介、開催期間などが告知される。これらの告知の全てにおいて英語が使用されており、講義内容の説明文の長さは、140 ワード程度、紹介動画の長さは、1~2 分程度の目安で作成することが推奨されている。

このような短い文章や動画によって、潜在的な受講希望者に対して直観的にコースで何が学べるかについて理解できるように情報を伝える必要がある。一方で潜在的な受講希望者は、それらの情報のみを手掛かりに判断しなければならないことから、京大 MOOC 制作チームは、講義コンテンツの制作はもとより、紹介動画の制作についても十分な時間を費やすようにしている。こうしたことから、紹介動画を作成する際に数か月を要することもある。

### 2.2 講義コンテンツに係る情報伝達 (講義の視聴)

講義コンテンツは、予め作成した動画であり、一度配信した動画については基本的にその内容を変更しないため、その配信においては一方向的な情報伝達と位置づけることができる。

各コースの公開期間内には、一週ごとに新たな講義コンテンツが公開される仕組みになっており、期間内であれば、コースで第一週目に配信された動画から、最新の動画まで、それらの全てをオンデマンドで視聴することが出来る。現時点におい

て、京大では、短いもので4週、長いもので15週の期間に配信している。

### 3 双方向型情報伝達

コースサイト内には、受講者が自由に書き込むことができる掲示板が設置されており、京大側の講師、TA、スタッフおよび受講登録者にアクセス権限が付与されている。これらアクセス権限保持者は、それぞれの立場と役割に応じて掲示板を使用しており、情報のフィードバックがなされていることから、双方向型情報伝達が実現している。

#### 3.1 掲示板の仕様

掲示板は、コースごとに設置され（表1）、その中でさらに、当該コース全般に関する内容と各週に配信された講義コンテンツに関する内容の2つに大別して提示される。また、それらの中で、テーマごとにスレッドが立てられるようになっている。

なお、スレッドの作成権限は、スタッフのみに付与されている。

表1：スタッフが準備するスレッドの種類

コース全般に関すること	
授業開始時	Discussion Forum: Rules & Guidelines
	Technical Problems Guidelines
	Introduce Yourself
授業終了時	Discussion Forum in Read-only Status
各週の講義コンテンツに関すること	
Week X General Discussion	
Questions About Week X Lecture Videos	
Questions About Week X Problems	
Homework	

※表中の“X”は週を示す数値が入る

#### 3.2 掲示板の運用

受講者は、この掲示板を利用して、講義の感想やコメントなどを書き込んだり、講義内容について質問するだけでなく、講義内容について、受講者同士でディスカッションするといった形で利用されている。講師やTA、そしてスタッフは、これらの書き込みを、毎日、最低1回の頻度で確認している。また、書き込みに対して、講師が、直接、返信して指導したりファシリテートする役割を担う場合もある。

##### ・3.2.1 講師の役割と運用実態

講義内容に係わる質問については、講師が直接

対応する場合がある。講師がすべての質問に答えるとすれば、非常に多くの時間と労力を要することになるため、講師がこの対応に使用できる時間の中で、任意に対応するという形で運用している。例えば、個別の質問に対して講師が個別に回答する場合もあるが、類似の質問に対してまとめて回答するなどの対応をとる場合もある。どのような対応が取られるかについては、講師の方針に大きく依存している。

##### ・3.2.2 TAの役割と運用実態

コースの運用においては、専門分野の知識を持つTAの支援も得ており、講師の対応を補完する役割として、TAが講義内容に係わる質問事項に答える場合もある。TAは、このほか、受講者間の活発な議論をうながすために、議論の方向性を示唆したり、考察のヒントを与えるなどして、ファシリテーターとしての役割を担っている。なお、受講者の書き込みに対する回答については、TAは講師やスタッフに相談した上でその内容を決定している。

##### 3.2.3 受講者の掲示板利用

先に述べたように、受講者は、講義内容についての質問を行うだけでなく、講義内容について、受講者同士でディスカッションするなどの形で利用している。ただし、すべての受講者が投稿しているわけではなく、また、一度も投稿していないからと言って掲示板を活用していないとも言えない（いわゆる、Read Only Member (ROM)の存在が想定される）ため、最も少ない場合でも当該コースの全受講者数の約30%が掲示板に任意に投稿をしていることから、それ以上の受講者が掲示板を利用しているものと推察される。その一方、配信期間が同一であるために比較可能な3つのコース（4週間の配信期間のもの）を比べた場合には、受講者による投稿数と修了率の間には相関関係がみられておらず、現時点においては、受講者の継続的学習を維持するための要因として、同掲示板の影響があることを示す結果は得られていない。

### 4 考察とまとめ

京都大学のMOOCで配信されたコースが7コースに限られることから、分析に利用できる運用上のログデータが少ないことため、現状で言及できる範囲は狭い。こうした中、本稿では、情報伝達

の側面から、講義コンテンツの配信告知と掲示板におけるコミュニケーションに絞って、その運用実態について説明してきた。

MOOCの広報は、潜在的受講希望者が公開予定のコースで何が学べるかについて理解できるように2つの側面で講義内容をわかりやすく表現したものとして制作されるべきであると著者らは考える。一つ目は、潜在的受講希望者を受講者に換えること、二つ目は、期待していた内容と異なるとして途中で断念する受講者を減らすこと、すなわち、こうした側面からの要求に応える必要がある。広報が適切に行われたかどうかについては、修了率などとも関連があるものと思われるが、現時点においては分析対象となる数値データ等が得られていないため、これ以上の言及を避けたい。今後、受講者に対して、期待どおりの内容であったかについてアンケートをとるなど、何らかの調査が必要となるかもしれない。

運営側と受講者側との双方向型情報伝達については、現状、掲示板の活用実績を見る限りにおいて、受講者による掲示板利用数(コメント数)が、修了率と正の相関を持っているという傾向は示されていない。3例のデータを用いているのみであるし、仮にそのような相関がみられたとしても、掲示板の活用が修了率を向上させたのか、継続して講義を受けている者が多いために投稿総数が多くなったのかについては、他のデータについても分析する必要がある。また、コースの内容や難易度によっては、初期離脱者数の多寡が大きく作用することも想定されることから、これについても分析の際に重視しなければならない要素となる。しかしながら、最低でも約30%以上の受講者が投稿しているとの結果が得られていることから、掲示板を介した情報伝達のあり方が、受講者の学習状況や学習意欲について探る上で、重要な手がかりとなるものと考えられる。今後は、こうした視点から運用時におけるログデータの収集と分析を積み重ね、コースの効果的な運用について模索していきたい。

## 参考文献

- [1] 京都大学, 平成25年度文部科学省先導的大学改革推進委託事業: 高等教育機関等におけるICTの利活用に関する調査研究委託業務成果報告書, 2014